

# 獣害をプラスに変えよう 丹波篠山

## フォーラムで市民ら活動報告



獣害対策の事例を紹介するNPO法人里地山問題研究所の代表理事＝丹波篠山市民センター

獣害対策を通して地域活性化を考える「第4回獣がいフォーラム」が、丹波篠山市民センター(同市黒岡)であった。篠山東雲高校の生徒や市内在住の大学生ら

がそれぞれの活動を紹介した。

同市では、獣害をきっかけに多様な人材を呼び込み、野生動物を「害」ではなく、プラスの存在に変える取り組みを進めている。実践報告の場として、市や市有害鳥獣対策推進協議会などをつくる実行委員会が2018年度から毎年フォーラムを実施している。

10日に開かれたフォーラムは2部制。第1部では、地域外の人材を生かした対策として、NPO法人「里地山問題研究所」(さともん)の代表理事らが、獣害柵の点検やクラウドファンディングを活用した取り組みなどを発表した。

第2部では、新たな担い手による実践事例を報告。京都府立大学1年の

さん(19)は丹波篠山市北嶋は高校生の頃から、同委主催の「獣がい対策」実践塾や、さともんの活動に参加。「対策を通じて丹波篠山の良さを再認識した。地域をよくする取り組みの一つになる」と話した。そのほか、大山小学校の児童や篠山ロータリークラブなどによる取り組みも紹介された。

登壇者らによるパネルディスカッションもあり、フォーラムは動画投稿サイト「ユーチューブ」でオンライン配信された。

(谷口夏乃)

神戸新聞  
2022年1月13日